

刻む会 たより

No.50

2013. 09. 27

長生炭鉱の“水非常”を歴史に刻む会

代表 山口武信

事務局

宇部市常盤町一―一九(宇部緑橋教会内) TEL〇八三六(二)八〇〇三

活動カンパ

振込先 ゆうちよ銀行 口座番号 〇159007-324005

名義 長生炭鉱の水非常を歴史に刻む会

ホームページ

<http://www.chouseitankou.com>

この秋が正念場！

在日の闘いに熱い支援の輪を！

朝鮮学校に対する補助金支給の打ち切りを許すな！

井上 洋子(山口市)

山口県庁正面玄関前で、三月から毎週水曜日に抗議の座り込みと県庁申し入れ行動が続いている。下関にある「山口朝鮮初中級学校」のオモニたちを中心に、県下から在日の皆さんが毎週毎週続々と参加し、その場には日本人の座り込み支援も増えてきて、交流の場になっている。

山口県が朝鮮学校に支給していた生徒一人あたり年額五万円、総額二〇〇万を超える補助金が打ち切られようとしているのだ。実際、今年度分は予算計上されず支給されていない。今年二月二一日、山口県から学校に対しては、打ち切りの通知がたった一本の電話で一方的にあった。学校関係者や保護者、生徒はとまどいと憤りで一杯だったに違いない。補助金の打ち切りは学校運営の財政に大きな影

響を与え、学校の存続にかかわるほどの問題だ。

国の高校授業料無償化制度が朝鮮学校を適用外としたことや、「北朝鮮」が核実験を強行したことを理由として、全く関係のない朝鮮学校の子供たちの学ぶ権利をはく奪しようとしている。しかも山口県は、長年県民の理解のうえに支給してきた既得権を、今回は「県民の理解が得られない」と、何の根拠もなく決めつけた。

県との交渉では県知事への面会を求め続けているが、県知事はその声を無視して、学事文書課課長が対応している。その席上、オモニたちは、「これは差別だ」「政治のつけを罪もない子供たちに回すな」「在日も納税の義務を果たしている」「県は一度学校に来て懸念されるような教育がされているのかその目で確かめたらどうか」「民族教育は子どもの権利条約で保障されている」等々、差別をくぐりぬけてきたオモニたちの厳しい追及が続く。

来年の予算計上の検討時期はこの秋から始まるらしい。何としても来年こそは支給を復

活させなければならない。不当な山口県の対応をただし、朝鮮学校がある二七都道府県のうち従来通り支給を続けている一九都道府県に続いて、山口県にも支給を復活させなければならない。



在日の歴史を考えると、日本の植民地化、強制連行等の加害の歴史をぬきには考えられない。共に平和に共存していく道を、在日が在日として胸張って生きていける社会を築き上げる義務が私たち日本人にはある。一人の山口県民として、山口県民税を払っている者として、今回の恥ずべき県の対応をただすまで、惜しみない支援を続けていきたい。この秋、一人でも多くの県民が山口県庁抗議の座り込みに参加して、この闘いを在日だけに孤立させることなく、日本人も共同の課題にしてほしいと切に願っている。抗議の電話や、抗議のががき、カンパも寄せて補助金支給の復活を勝ち取ろう。

カンパ振込先

朝銀西信用組合（下関支店）

店番号 016

口座名

ウリハッキョ応援ネットワーク下関

口座番号 1075 674

「長生炭鉱 夏のフィールドワークに思う」

― 妻東録さんの「語り」は犠牲者遺族の

「恨」とダブった！ ―

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

内岡貞雄

八月最初の土曜日(三日)、第一九回の「夏のフィールドワーク」が行われた。昨年(二〇一二年)から、時候の良い三月に「春のフィールドワーク」を実施し、現地をゆっくり歩いて回るようにしたので、「夏」は学習会等が中心である。なお、「春」は西岐波の地元の方々の参加があり、「新たな事実」を知る機会にもなっている。

今回は北九州市在住の学校公演「語り部ぺさん」(妻(ペ)東録(トンノク)さん)をお呼びし、「在日二世の思い」について話してもらった。(妻さんも「刻む会」会員で、長年にわたり会の活動を支えている。)まず、妻さんが差し示したのは『門鑑』(もんかん)である。それはオモニ(母親)のもので、一九四三年頃、八幡製鉄所の下請会社(入江組)が発行した証明書である。一九四〇年、アボジ(父親)は生まれ故郷の慶尚南道陝川郡(キョンサンナムドハプチョングン)から八幡製鉄所に連れて行かれた。『募集』という名目だが、村からの割当て人数

が決まっており、『強制連行』と言っても間違いない。父の後を追って、母(姜金順(カシ・グムスン))は一九四二年の大晦日に、四人の幼子連れ、荒れる玄界灘を『関釜連絡船』で渡日した。私は翌年(一九四三年)七月に生まれたが、オモニはそれからわずか三週間後、一家を支えるためにアボジと一緒に製鉄の鉱石運搬の重労働の仕事に就いた。それは日本の朝鮮植民地支配の下で、まるで奴隷労働のような日々だった」と話された。



私(内岡)は今夏に妻さんのオモニの実家(慶尚南道陝川郡栗谷面林北里)を訪問する機会があった※。中庭に蚊帳を張り、星空を見ながら妻さんから話を伺った。

「アボジが日本へ行った後、オモニは四番目の子どもがお腹にいる時は、出産ギリギリまで働いたんですよ。アボジの実家に牛を返しに行く途中で産気づき、オモニはとても苦しい目にあつたと聞きました。私はオモニを追慕しながら、歯をくいしばって『学校公演』活動を続けているんです。」

※「在日コリアンの現実」を深く知るには、在日一世のルーツを訪ねることが不可欠であると思う。

裴さん一家は、アボジという大黒柱を日本に徴用されて以降、生活がきわめて苦しくなり、家族の気持ちも不安定になった。

それは長生炭鉱水没事故で、一家の働き手を失った遺族と同じ軌跡であった。裴さんのオモニの心が、長生炭鉱の遺族の『恨』の思いと重なっていると感じたのは私一人ではあるまい。裴さんとオモニ、オモニが亡くなられたあとは、裴さんはお姉さんやお嬢さんたちと活動を続けている。「学校公演は八〇〇回を超えた」という。裴さんは公演のたびに必ず、「人権を大事にし、民族差別やいじめをなくそう」と訴えかける。

ある時、「刻む会」代表の山口武信さんが「裴さんのオモニの『アヒラン』は心に残りましたねえ」と言われたことがある。それはお母さんや裴さんが、在日の血と汗の

にじむ歴史を乗り越え、差別を受ける苦しみと闘い、決してくじけずにたくましく生きてきた『民族の精神の強さ』を感じ取ることが出来るからだと思う。児童や生徒たちが裴さんの話に熱心に聞き入るのも、そうしたメッセージが子どもたちの心に伝わるからであろう。

私たち「刻む会」は、長生炭鉱水没事故犠牲者や遺族の方々に謝罪の心を持つと同時に、この未解決な問題を「人権・平和が尊重される」取り組みに広げてゆかねばならない。



「学校公演一〇〇〇回が目標！」裴さんは、力強くそう語った。一〇〇〇回！とてつもない数字だ。ボランティアで講演を続けている裴さんの原動力は裴さんのオモニの思い。そして、日本と朝鮮民族が仲良く過ごせる世界…人々が安心して暮らせる世界を目指す…。

長生炭鉱の問題に関わって、早いもので、もう一九九年になる。結婚して一九九年。山口に来て一九九年。長生炭鉱の運動と共に歩んできた。一九九年前、最初に夏のフィールドワークをやるうと提案した張本人だが、途中、妊娠・出産・転勤とあまり関われない時期もあった。それでも、長年の悲願であった追悼碑を建立し、初めての夏のフィールドワークなので、思いは格別だった。そして、長年思いを寄せて協力して下さった裴さんの語り…。子ども達と一緒に参加できたのが嬉しかった。

私の結婚後の人生はこの問題と共に歩んできたと言っても過言ではない。今も…子どもの予定に振り回されて、なかなか関われないけれど、これからも、できる場所でずっと何かしら関わっていきたいと思う。これからも、一人でも多くの仲間と一緒に関わって下さることを願っています。

山内弘恵

長生炭鉱フィールドワーク

—人権が尊重される社会を実現させたい—

長生炭鉱の「水非常」を歴史に刻む会

内岡 貞雄

【はじめに】

二〇一三年九月十四日（土）、福岡県鞍手郡小竹町にあるNPO法人ちくほう共学舎※「虫の家」メンバー二十四名の皆さんが、長生炭鉱フィールドワークに参加くださいました。まず、「緑橋教会」で昼食を取り、その後「アボジは海の底」のDVDを観ていただきました。DVDは二〇〇五年頃、奈良県大和高田市にある「ケグリ・オリニ会」（金康子（キム・カンジャ）さん代表）が制作したもので、私たち「刻む会」が利用させてもらっています。とても わかりやすく、よくまとまった内容です。

DVD鑑賞の前に、「刻む会」と「虫の家」からそれぞれ自己紹介を行いました。「刻む会」四人と緑橋教会教会員一人、「虫の家」はご家族で参加した方々、新婚旅行の途中に参加されたカップル、ボランティアの方々を事務局長の高石伸人さんが紹介をされ、和気あいあいの中雰囲気も和やかになりました。

※「虫の家」は、「街に出よう、街を変えよう！」をテーマに、（筑豊の）直鞍地

区の「しようがい」をもつ若者たちが中心になって結成した「ゼロの会」（一九七八）を母体にして、時間を気にせず出逢い、語り合い、想いを発信する拠点をつくりたいという声を集めて、一九八五年十一月の「がんばれ、虫の家！長谷川きよしコンサート」公演をきっかけにスタートしました。



「殉難者の碑」の前で

コースは、追悼碑建立の場所↓新浦炭鉱の殉難者之墓↓火葬場↓JR宇部線と旧長生駅↓長生炭鉱殉難者之碑↓本坑口跡↓ピヤの見える海岸（献花）↓朝鮮人寮跡を廻りました。殉難者之碑の碑文を、参加者の方に読んでもらい、犠牲者一八三名の名前が刻まれていない問題点をみんなで考えました。

【参加者の感想】

先日、「虫の家」の高石伸人さんから感想を送っていただきましたので、ご紹介したいと思います。

○地元筑豊にも、かつて日本の近代産業を支えた数多くの炭坑がありました。現在はもうその面影を残すものはほとんど姿を消しています。バトンタッチを託されている筈の我々も、真実を語り伝えるというその役目を果たしているかどうか、おぼつかない状況です。（あるいは放棄しているかもしれない）。上っ面の「やさしさ」とか「善意」とかが幅を利かす時代にあって、しっかりと地に足の着いた、しっかりと根を大地に降ろした活動をなされているご様子に敬意を表します。

夏の盛りがぶり返したような九月半ば、汗と蚊に悩まされた小さなフィールドワ

【現地フィールドワーク】
当日は、秋の陽ざしが一段と強く、現地をかなり歩くので心配でしたが、皆さん元気に完歩しました。

ークではありましたが、その意味は十分大きいものだった、という風に感じます。お世話になりました。(古野 勝さん)

○本日は長生炭鉱の歴史について詳しく教えて頂き、有り難うございました。今回、初めて長生炭鉱のことを知り、当時日本人が自分たちの利益の為に、関係ない朝鮮の方々と連行し、強制的に働かせたことについて、とてもショックを受けました。これまで炭鉱のことを知ってはいましたが、実際に映像を見て、直接その場所に行き、当時の悲しい出来事に対して、日本人として複雑な気持ちになりました。このような悲惨なことは二度とあってはいけない。その為には戦争という人と人が殺し合う事が、この世界からなくさなければいけない。一人ひとりの命はとても尊いということを、私たちは常に考えるべきだと思います。今日は有り難うございました。(坂上佐和子さん)

○私は中学生の頃、"強制連行の足跡をたどる旅" (亡くなられた加藤慶二さん代表) で、韓国や日本における炭鉱で、韓国・朝鮮の人たちに過酷な労働をさせたということは学んでいましたが、宇宙というところで、しかも海底炭鉱で、そう

いう事実があったことは全く知りませんでした。強制連行や炭鉱での人間扱いされない日々。人を人と思わなくなる戦争。私たちがこういった一つ一つの事実をちゃんと学び、子どもたちにも語り継いでいかなければ、と思います。ありがとうございます。(高石未応さん)

○私は田川の石炭資料館や炭鉱跡地なども行きました。初めて海の底で石炭をほっていることを今日初めて知りました。今日、DVDを見て、「こんなに怖いことを日本人はしてたんだなあ」と思いました。二度とこんなことをしてはダメだなあと思いました。このことを忘れずに、みんなに伝えていけたらなあと思いました。(高石桜さん 中一)

○長生炭鉱跡フィールドワークの前にDVDを見ていたので、説明も良くわかりました。炭鉱に朝鮮の人が強制的に連れてこられ、ひどい労働条件で働かされ、帰ることもできず、逃げても恐ろしい目にあうなど、その状況を考えると胸が痛みました。そして、朝鮮人労働者を労務管理していた日本人が筑豊からスカウトしてきた人と聞いて、「ああ．．」と、またすまない気持ちでいっぱいです。

(大場さん)
※筑豊の納屋制度のようなやり方を宇宙の炭鉱も取り入れ、効率的な管理を真似たようです。

○今回初めて長生炭鉱のことを知りました。DVDを観て、日本人が朝鮮人に対してあんな残酷な仕打ちをしていたことや、ひどい労働を押しつけられていた現実を知り、心が痛みました。唯、話だけを聞くより、フィールドワークで犠牲者の慰霊碑や海辺に浮かぶピーヤに連れて行って頂き、つらい歴史を目の当たりに感じましたが、その現実をもっと日本中の人を知る義務があると思いました。もっともっと今の日本は、今まで起こしてきた朝鮮人や外国人に対しての罪をしっかりと謝罪すべきだと思います。暑い中、詳しく説明をして頂き、ありがとうございます。(松本律子さん)

○炭鉱事故などおそらくあったのだろうと思っていました。こんなにも悲惨な事実があった事におどろきました。今回、長生炭鉱を訪れるにあたりネットを使って少し調べてみましたが、ここまでの事はわからず、結局詳しい場所すらわかりませんでした。歴史を変えることはでき

ませんが、正しく歴史を伝える事がとても重要であると感じました。この度は、貴重な勉強をさせて頂き、ありがとうございます。
(坂上慎一さん)

感想を書いてくださった七人の皆さん、ありがとうございます。長生炭鉱のフィールドワークが、「歴史を正しくとらえ、人権尊重や平和の大切さ」を考える機会になれば嬉しく思います。

【終わりに】

「虫の家」の皆さんとのフィールドワーク、また、二日後に実施された大分県宇佐市の部落解放子ども会の皆さんとのフィールドワークで思ったことがあります。

解放子ども会（中学生）の生徒さんに追悼碑広場で「刻む会」の碑文を読んでいた、また「殉難者之碑」の場所でも碑文を同じ（子ども会）中学生に読んでいただきました。

私たちは、フィールドワークを通して、「何が大切にされるべきなのか」、「どんな事に疑問を持たねばならないのか」、参加者の皆さん、特に、若い方々と一緒に考えてみるのが今、とても大切であると、再認識させられました。



「虫の家」の参加者の皆さん（ピーヤの見える長生海岸）

9/16 部落解放同盟大分県連合会フィールドワーク



中高生一六名と引率者を
含む三〇名がフィールド
ワークに来てくれました。



韓国 の炭 鉱 施 設 を 訪 ね て
— 植 民 地 時 代、韓 国 炭 鉱 の 徴 用 に つ い て —

山 田 健 一

はじめに

太平洋戦争中の一九四二年二月、山口県宇部市に位置する長生炭鉱の海底部で水没事故が発生した。この事故から七一年目に長生炭鉱の「歴史を刻む会」の念願がかなって、犠牲者一八三名の追悼碑が瀬戸内海に面した床波漁港近くに完成した。犠牲者のうち七割以上が朝鮮半島の出身者で、その中には強制連行により長生炭鉱へ送られた徴用労働中に犠牲となった方々も含まれた。

日本国内の炭鉱での強制連行による朝鮮人の徴用は、林えいだいによれば、九州の長崎端島炭鉱や筑豊炭鉱などでも行われた【注】「二」。一方、韓国国内では、日本企業が経営していた炭鉱で徴用労働はなかったであろうか。

二〇一三年三月と同年五月、韓国東北部の休戦ラインに接する江原道（カンウォンド）・太白（テベク）地区の炭鉱施設と、韓国南西部に位置し民主化運動で有名な光州広域市の和順（フアスン）郡の炭鉱施設で調査を行った。これらの地域で博物館二ヶ所と稼働中の炭鉱五ヶ所を訪問して資料を

収集し検討を行った結果、徴用について一部の事実が判明したので報告する。なお、炭鉱一三ヶ所についても聞き取り調査を行ったが、情報を得ることはできなかった。

一 太白炭鉱体験公園

この公園は、一九五五年から一九九三年の三九年間にわたって操業されていたハムテ炭鉱の廃坑跡地が利用され、二〇〇六年四月に太白市により設立された。かつての坑道を利用した体験坑道（図1. 2.）と、当時のふる場や更衣室などの炭鉱関連施設を見学できる展示館により構成されている。展示館の写真コーナーには、図3. 4. に示されるように、徴用に関連した写真が展示されていた。



図 1. 旧ハムテ炭鉱の主幹坑口

図 3. 1937~1938 年

(昭和 12~13 年)

三陟炭鉱（現長省炭鉱、本文 3 参照）、道溪炭業所（本文 3 参照）は、大陸の侵略を準備していた日本政府の計画の下で設立された。朝鮮総督府は日本の旧財閥系企業に三陟炭鉱の開発を許可し、朝鮮人達を徴用した。



図 2. 豎坑を昇降するエレベーター状構造物のケージ。ここで、地底で採炭した石炭を地上へ搬出し、鉱員を採炭現場へ送り込んでいた。



図 4. 1943 (昭和 18 年) 年 左の写真は、休息している徴用鉱員。右は、石炭の入ったトロッコを手押している鉱員

二 石炭博物館

石炭博物館は、炭鉱体験公園から3.5 kmのところにある太白山(標高一五六七m)登山口に、一九九七年五月、太白市により開館された。太白炭鉱体験公園が休暇村を有したテーマパークであるのに対し、石炭博物館は石炭産業全般の理解を深め学習できる科学館として設立された。

石炭博物館では、次のような聞き取り調査の結果を得た。

太平洋戦争中、炭鉱労働に強制的に動員された朝鮮人は約二十万人であった。韓国国内において、徴用鉱員たちは朝鮮国籍の労務係ないし坑内指導員に監視・圧制される、いわゆる「同胞支配」のもとで、過酷

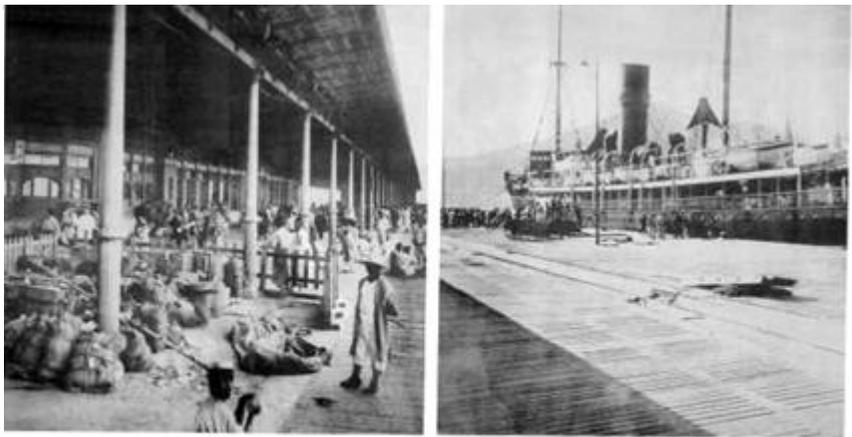


図 5. 旧ハテム炭鉱から移設された豎坑巻揚機檣。

な労働を強いられた。なお、この監視の構図は、我が国においても強制連行を受け入れていた炭鉱で認められた【注】¹³⁾。また、日本の炭鉱用語である「ボタ山」、「先山(さきやま) 採炭現場で石炭を掘る鉱員」、「後山(あとやま) 掘った石炭を坑外へ運び出す鉱員」、「モンペ」などが、太白市では現在も使われている。

館内の写真展示コーナーには、図 6. 7. に示されるように、興安丸をはじめとする朝鮮半島と日本との連絡船の写真が掲示されていた。これらの連絡船により、強制連行された朝鮮人は徴用のため日本へ移送された。

図 6. 一九四三年(昭和一八年) 朝鮮総督府時代の釜山港



1943년 | 강제징용자들이 떠나는 부산 부두
Busan port where the Korean draftees were being taken to Japan

한국에서 징용된 조선인들은 모두 부산에서 선박편을 타고 일본으로 갔다. 그래서 그 배를 떠나면서 울렸는데 지금은 무관해서로 변하여 많은 여행자를 태우고 다닌다.



図7. 一九三〇〜一九四五年（昭和五〜二〇

年）下関と釜山を就航していた定期連絡船

上は下関港に係留している定期連絡

船

下は航海中の興安丸

三 長省、道溪、江原の三炭鉱

国営炭鉱の長省（チャンソン）炭鉱（図8.）と道溪（トゲ）鉱業所（図9.）の二つの炭鉱では、図3.の説明文を参照すれば、日中戦争から太平洋戦争にかけて徴用が行われていた。これらの施設では入構許可が得られず、外部からの見学となった。民営の江原（カンウォン）炭鉱（図10.）では、訪問日が土曜日ということもあって、入構が快諾された。現場鉱員からの聞き取り調査から、江原炭鉱では徴用は行われなかったことが判明した。



図8. 国営長省（チャンソン）炭鉱、堅坑巻揚機槽



図9. 国営道溪谷（トゲ）炭鉱、正面に坑口が見える



図10. 民営江原（カンウォン）炭鉱の坑口

四 和順鉱業所

かつて和順は約三五ヶ所の炭鉱の操業により湖南炭田と言われた地域であったが、現在稼働している炭鉱は国営の和順鉱業所（図11.）のみである。一九〇八年頃から開

発された和順鉱業所は無煙炭を産出する炭鉱で、一九三四年から太平洋戦争が終わる一九四五年の一年間にわたり、日本の旧財閥系企業により経営されていた。日本企業が和順に残した石橋(図12)からも、当時を思い起こすことが出来る。現在の全従業員は六〇〇名、勤務形態は八時間の二交代制で、出炭量は二四万トン/年とのことであった。

和順地域が位置する全羅南道では、日本企業が韓国に入っていた時代、「皇民化政策」の一環として「一面(村)一神社運動」が重点的に展開された。しかし、津田らの神社跡地調査によれば、当時建立された神社は全て取り壊され、跡地は公園などに利用されていると報告された【注】^四。



図 11. 和順鉱業所、人道・資材搬入坑道坑口



図 12. 和順鉱業所の正門前に位置する日本様式石橋。この橋は、かつての日本の旧財閥系企業の経営時代に、人々が炭鉱に向かうために取り付けられた。現在は、強度不足のため車輛は通行禁止とされ、黄色いストッパーが設けられていた。橋の欄干には“第一亀岩橋”と記名されており、亀岩はこの地の地名とのことであった。

おわりに

今回の炭鉱施設の訪問で、一九三〇年代前半から終戦の一九四五年にわたって、日本企業が韓国においても炭鉱を経営し、そのための徴用労働のあったことが確認された。これについての詳細な調査は、文献や資料が所蔵されている国営炭鉱の本社である石炭公社などで行う計画である。

今回の聞き取り調査結果の一つに、当時の炭鉱工員たちへの給与と日本が戦後に行った韓国への補償に関して、次のようなものがあった。「戦後、日本から多額な被害補償がなされたにもかかわらず、旧炭鉱員たちへの賃金は未だ支払われていない。そ

れは、二〇一二年に鉄鋼生産量が世界五位となったポスコ製鉄所の設立に補償が集中的に注がれたためで、強制動員された元徴用工や遺族らは、八月一日の独立記念日がくると、毎年、ポスコの正門前で抗議のデモ行進を行っている。」である。これと関連して、二〇一三年七月一日付の朝日新聞には、「韓国徴用工 請求権問題再燃も」と、同様のことが報じられていた。いずれにしても、元徴用工やその遺族らによってポスコ正門前で行われる抗議のデモ行進は、戦争が今も継続していることを物語っている。

【注】

【一】 林えいだい、「写真記録 筑豊・軍艦島——朝鮮人強制連行、その後」、(弦書房、二〇一〇)一六二頁

【二】 同注一、三一二頁

【三】 同注一、二〇九頁

【四】 津田良樹、中島三千男、金花子、川村武史「旧朝鮮の神社跡地調査とその検討——全羅南道、和順郡を中心に——」、『年報人類文化研究のための非文字資料の体系化』三号、神奈川大学二一世紀COEプログラム研究推進会議、(二〇〇六)、二八五頁

「刻む会」一般会計報告 (2013年6月1日～8月31日)

(円)

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
繰越金	0	200,000		事務費	2,340	2,340	
カンパ	180,346	230,346	※	広報費	58,284	112,189	
物販	0	0		追悼碑管理費	1,033	2,817	電気代他
雑収入	0	0		活動費	4,250	4,250	
				税金	0	53,449	
				小 計	79,027	188,165	
				繰越金	101,319	243,126	
合 計	180,346	431,291		合 計	180,346	431,291	

※天野政子 安溪遊地 浦部昭一 岡本愛子 金炳辰 小原弘子 須原志保 多田玲一
 中村満吉 藤部美世子 日本基督教団宇部緑橋教会 在日大韓基督教会宇部教会
 以上感謝をもってご報告いたします。

「刻む会」特別会計報告 (2013年6月1日～8月31日)

(円)

収 入				支 出			
科目	期間実績	累計	備考	科目	期間実績	累計	備考
繰越金	0	5,259,766		繰出金	0	0	
繰入金	0	0		繰越金	0	5,259,766	
合 計	0	5,259,766		合 計	0	5,259,766	

“追悼碑ひろば”に行きましたか？



市民の手で作った朝鮮民族と日本人の架け橋の場です。未来への架け橋となるよう、
 たくさんの人々に訪れて欲しい場所です。まだ行かれてない方！ぜひ！

活動日誌

(前回たより以降)

- ▽七月四日(木)
事務局会議
- ▽七月七日(日)
緑橋教会との話し
合い
- ▽八月三日(土)
夏のフィールドワ
ーク
- ▽八月二二日(木)
事務局会議
- ▽九月一四日(土)
NPO法人ちくほ
う共学舎「虫の家」
フィールドワーク
- ▽九月一六日(月)
部落解放同盟大分
県連合会フィール
ドワーク
- ▽九月二三日(月)
強制動員真相明
ネットワーク第二
五回事務局会議

強制動員真相究明ネットワーク

事務局会議参加報告

「刻む会」事務局長

小畑太作

九月二十三日(月)十三時半から一七時まで神戸学生青年センターを会場に開催された、強制動員真相究明ネットワーク(代表・飛田雄一さん)の事務局会議(運営会議)に参加した。「刻む会」からの派遣による参加であった。

宇部から神戸と、遠方と言えば遠方なのであるが、この度の派遣にはそれを押しての理由がある。それは一言で言えば「遺骨等の収集」のためである。

今年二月の追悼碑「完成」後の当会の最重要検討事項の一つは、犠牲者の「遺骨等の収集と返還」である。追悼碑の完成報告でも記したが、遺族との和解・平和な未来の創造という観点からすれば会の使命は未だ達成されてはおらず、そのことは追悼碑にも現れており、従ってその碑は実のところ「未完成」なのである。今後、どういう道筋で使命の達成へと向かうかを話し合う中で、必然的に浮上したのが遺骨等の収集と返還である。しかし、遺体のある場所はかなり明白であるとしても、坑口もない海底坑道という場所へのアプローチは容易な

ことではない。当然、当会の自力でどうできる事業とは考えられないので、従来この課題は会の活動からは外して、専ら追悼碑建立に力を注いできた経緯がある。追悼碑建立後に、最重要ではあったも「検討」事項としなければならなかった理由は、ある意味、責任的に考えてのことであった。

検討はおおまかに、技術的な問題と財政的な問題の二つとなる。順序としては当然、技術的な問題が先となる。そしてこれについては前号の『刻む会たより』にて、山田健一さんが報告してくれているとおり、山田さんより一つの可能性が示唆された。可能性があれば財政的問題も含めてその実現へと向けた検討が次の課題となる。しかし、次の段階はより困難なものとしてある。また加えて、検討自体に相当の経費を要することにもなる。そこで、今一度立ち止まって、これまで遺骨収集への取り組みも含めて、種々の活動を担ってきた方々に相談するため、また今後の連帯のためにも、この度の事務局会議に参加した次第である。

発言の機会は、会議冒頭で与えられた。わたしの拙い説明ではあったが、前述したこの度の参加の目的に加えて、「刻む会」の現況を全国からの参加者一〇名に報せる機会となった。会議は次に、この間の活動報告へと移ったが、それは奇しくも、ニュージーニアにおける遺骨収集の現地報告であつ

た。湖の畔から次々に発掘される、更には生活道路からすら発掘される大量の遺骨の映像を観ながら受けた報告に依れば、DNA鑑定により遺族との照合が可能であり、しかしそれにはそれ相応の発掘と収集方法が不可欠であるとのこと。私たちは現在、遺骨へのアプローチまでの検討段階であるが、返還までの総合的検討を念頭に置く必要を覚えた。その他の会議内容については、紙幅の都合上割愛するが、いずれも色々な意味でレベルの高さを感じるものであり、有意義であった。しかし何よりも有意義であったのは、やはり人との出会いであった。一人ひとりがそれぞれの現場で、過去の事実に向き合いながら、平和な未来の創造のために働いている。会議後の懇親会では新しい出会いが与えられ、今後「刻む会」からの更なる情報発信も求められた。

わたしたちにとつての「遺骨等の収集」も、平和な未来の創造のためであることを改めて思わされた。当面の課題の解決が直ぐに見えたわけではないが、今後もこうした機会を大切にし、運動の広がりや人の繋がりと作り出していくことは必要であろうと思う。

